

地域の連携を活かしたまちの活性化に向けて
～出口を見据えた木材利用拡大の取組について～



神奈川県 小田原市長 加藤憲一

小田原市 

小田原市の紹介

- 神奈川県西部の中心都市
- 人口：約20万人
- 森・里・川・海が広がる城下町
- 恵まれた交通アクセス
(東京から新幹線で約35分)



小田原市の森林・林業・木材産業・木工業の現状

森林・林業



- ・ 市域の約4割が森林（4,264ha）
- ・ うち約7割が人工林（スギ、ヒノキ）で多くが利用期
- ・ 森林組合等が毎年約100ha程度の間伐を実施

木材産業



- ・ 製材は小規模事業者が数社のみ。材木店は20社程度
- ・ 上記事業者が木材業協同組合を組織

木工業



- ・ 箱根細工、漆器、玩具などの約80事業者が存在
- ・ 様々な木工技術が集積する全国有数の産地
（生産額約20億円/年）

木工に強みを持ち、小規模ながら木材の生産・流通・加工までがひとつの街で行うことができる点に特色

取組事例①：木工分野での地域材の活用

事業者のこれまでの評価

- ・ 木製品の材料は広葉樹（主に他産地や外材）が基本
- ・ 針葉樹は柔らかく木工には不適



行政等からスギ・ヒノキ等利用への理解について働きかけ

現在

- ・ 事業者は木工材料としての地域材の使用に一定の理解
- ・ デザイン性にこだわった商品の開発
- ・ 市場からも高い評価



間伐材ボール（ヒノキ）

→ **木工産地ならではの地域材の付加価値の向上が実現**



奇木（スギ）

ひきよせ（ヒノキ）



かまぼこつみき（スギ）

取組事例②：木育による普及啓発と木工業（おもちゃ）の振興

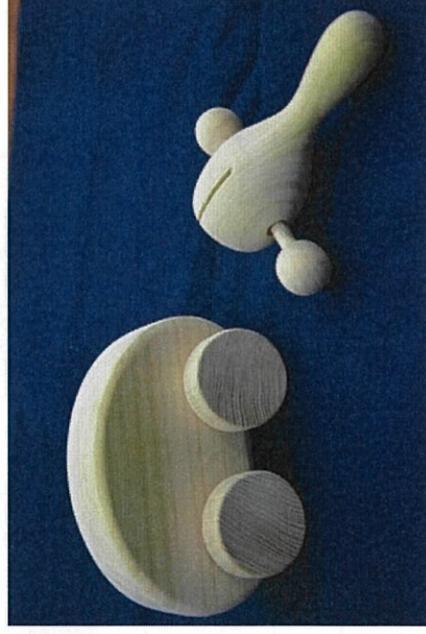
おだわらウッドスタート事業について

- ・ 木を使う文化を積極的に発信するため、「赤ちやんから始める生涯木育」を提唱する「東京おもちゃ美術館」と本年2月にウッドスタートを宣言
- ・ 地域の子育て関係者と連携しながら、木育コンセプトブックと地域の事業者からの公募により選定した木製おもちゃを新たに新生児を対象に本年4月より贈呈するなど、木育を推進

→ 「木づかい」の浸透や地場の木工業の振興に寄与



木育コンセプトブック



地元ヒノキ材による誕生祝品
(ひのきかたかたとかまぼこぐるま)

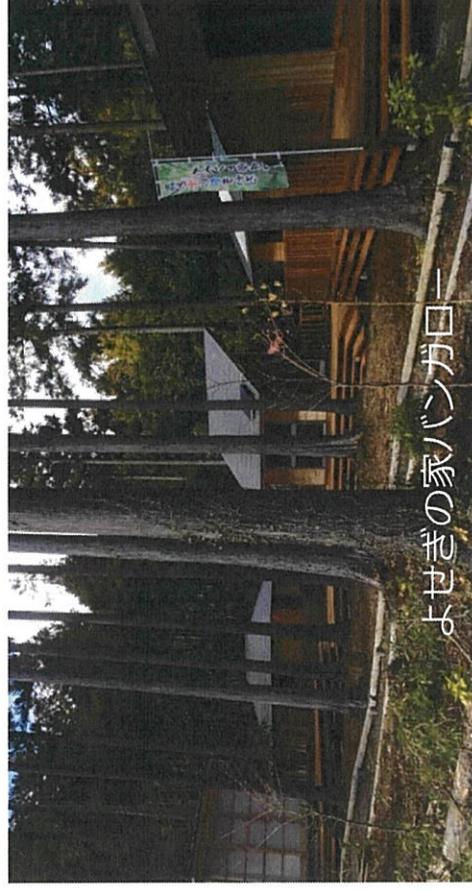


誕生祝品贈呈場所の木工品アンテナ
ショップ（TAKUMIHO）

取組事例③：地域材での家づくりに向けた取組

モデル施設としてのバンガロー建設

- ・ 虫害材であっても、建築用材として利用可能性があることを実証し、市民等に地域材の良さを実感してもらったため、デザインコンペ等を行い、地域の木に関わる関係者が協力して、平成24年度に小田原市いこいの森に5棟のバンガローを建設



よせぎの家バンガロー



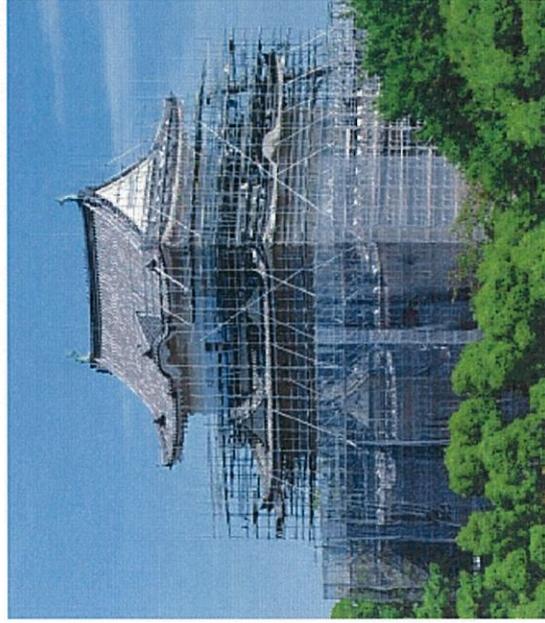
小田原フローリング材(ヒノキ)

フローリング材の開発

- ・ リフォーム需要等に対応しながら、地域材の普及拡大を進めるため、市の補助制度の創設にあわせ、地域の木材業協同組合が無垢のフローリング材を開発

取組事例④：川上・川中・川下の連携（小田原城摩利支天安置空間の再現）

- 平成27年度の耐震改修工事、展示大幅リニューールにあわせ、過去最上階に武家の守護神としてまつられていた「摩利支天像」の安置空間を再現
- 施工等は、地域の森林所有者、森林組合、木材業協同組合、宮大工など関係者が結集し、旧藩有林等からの材の伐り出しから加工までを地元の技術で実施
- 地域のシンボルとして、平成28年5月のリニューアルオープン以降、多数の来訪者が訪問し、多くの反響を呼ぶ



改修中の小田原城の様子



摩利支天像



樹齢約300年のスギの加工の様子

取組事例④：川上・川中・川下・川下の連携（小田原城摩利支天安置空間の再現②）

地域の顔が見える関係を活かして地元の木によるまちなかのシンボルが完成



現在の地域材利用が直面している状況

- ・ 木工分野やプロジェクト事業での利用は徐々に進展
- ・ 一方、木材利用のメインとなる住宅分野等での利用は、助成事業等での後押しはしていないものロット、品質、価格面等から流通や一般への普及が捗らない状況



小田原産木材住宅リフォーム等助成事業

市民を対象に、小田原産木材によるフローリング、腰壁、ウッドデッキを新築やリフォームで利用する場合に、流通材との価格差を一部補填

→ 「地域の森を守る」や「地産地消」といったストーリーだけでなく、
地域の特色を活かして、どのような魅力ある木材商品を開発するかが課題

課題への対応

小田原市地域産木材利用拡大調査検討委員会（平成28年7月～12月末予定）

目的：地域産材の需要拡大のため、川上から川下までの流通の実態（流通先、流通量、品質、価格等）を把握し、地域産材の生産・流通における課題等を整理の上、地域に見合った具体的な方向性（需要のターゲット、数量、求められる品質、価格等）を検討

構成員：森林所有者、森林組合、原木市場担当者、木材業協同組合、建築事業者、大工職組合、県及び市の森林部局、市（建築部局）、学識経験者 等



検討会の様子



検討会での現地視察

→ **山側への経済的な還元を目指し、各段階の関係者が木材の生産・流通実態を共有・俯瞰し、顔が見える関係を活かして、地域に見合った出口を模索**